

巻頭によせて：三大学対抗ディベート合戦始末記

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学法経学会 公開日: 2015-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三木, 義一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/8653">http://hdl.handle.net/10297/8653</a>

〈巻頭によせて〉

# 三大学対抗ディベート合戦始末記

三木義一(静岡大学助教授)

私のゼミでは数年前からディベート形式を採用し、税法上の基本的問題を賛成論対反対論にわけて「論争」することになっている。昨年は最初の試みとして、土地税制問題について(私が非常勤で担当していた)日大経済学部の税法ゼミ、静大の川瀬ゼミ、それに税法ゼミの三ゼミの対抗戦を行った。初めての試みだったことに加え、静大生は日大の非常にきれいな会場(たまたま教員の会議用の部屋を使用できた)に足がすくみ、日大生は静大の美女軍団(税法ゼミ七人+川瀬さん)に目がくらみ、議論は余り盛り上がり、司会者の私がかなり介入してしまった。これが、「静大びいきの司会だ」と日大生の批判を受けることにもなった。私は静大生をひいきしたわけでは断じてなく、ただ女子学生を擁護したかっただけなのに……。こんな調子で、第一回目の対抗戦は勝敗もはっきりつかないまま終わってしまった。

しかし、これが刺激となって、日大の新ゼミは議論好きの学生が集まり、静大も同様の傾向がみられたので、今年は大阪府大の田中治ゼミ(税法)にも加わってもらい、大阪で三大学ゼミ対抗戦として六試合(各大学それぞれ四試合。静大が担当したテーマとその内容については本紙の税法ゼミの部分参照して下さい)を行うことにした。一試合各一時間で、例えば「地価税賛成か反対か」では大阪府大が「反対」、日大が「賛成」というように役割を決めて議論する方式にし、

審判長は長年全国青年税理士連盟の会長を務めてこられた小池幸造氏にお願いした。

学生達は夏休み後本格的な準備に入っただが、議論の立場を固定したために、若干苦情が出てきた。例えば、大阪の学生達は「地価税反対なんて良心に反していない」というし、「国際貢献税賛成」の立場にされた静大の学生は「自分の本心と違うことぬけぬけとしゃべるなんていやです。ゼミでは詭弁を勉強するのですか」とくっついてかかってきた。自己と異なる意見もきちんと理解しておくことは大事で、それが、自己の理論をより強固にすることにつながるのだ、という私の説明に納得したかどうかは解らないが、それでも学生達の準備は進み二月九日、一〇日の試合を迎えた。

まず第一試合は「消費税賛成か反対か」である。日大(賛成)約一〇人、静大(反対)五人が登場する。第一ラウンドは双方がそれぞれ自己の基本的考えを述べるのだが(各一〇分)、いいことをいうと会場から大きな拍手が起こる。双方ともここは無難にこなした。さあ、いよいよ正念場の第二ラウンドだ(二〇分)。ここは双方が相手を攻撃し、論争し合うので、相手が何を突いてくるか事前にはわからない。静大生の足が震えている。あの元気そのものだった日大のTの手がやはり震えている。しかし、私の心配をよそに第二ラウンドはかなり激しい攻防がなされ、あっとい間に終了してしまっ

た。最終ラウンド(各五分)は総括である。ここで自説の正当性をピシッと決めると印象がよくなる。さて、いよいよ判定だ。主審の小池氏が静大、副審の田中氏が日大と分かれたので、引き分けになった。一生懸命な学生達を見ているうちに勝ち負けをつけるのがかわいそうになってきた私は、正直ほっとした。

こんな調子で、六試合が終了。いろいろ面白い場面があった。例えば、法人税では大阪府大が大企業優遇税制に関する分かりやすい図表を多数用意し、日大を圧倒しそうであった。その時、日大生一人が「この資料はほとんど消費税導入前のもではないか。われわれは消費税導入後の法人税負担の国際比較を問題にしているのです、この資料は殆ど価値がない」と反撃し、これで劣勢を挽回したりした。あまり気乗りしなかった国際貢献賛成グループも初日の激しい議論に刺激され、それまでとは見違える迫力ある議論を展開した。主審の小池氏もおとなしそうな女子学生が迫力ある国際貢献要論をぶったのは驚いたようだ。しかし、平和主義者である氏はどうしても賛成派を勝たせることができなかったように、引き分けになった。わがゼミも、日本の平和のために引き分けを実は残念に思っている。総合成績は二勝一引き分けの日大が優勝。静大は一敗三引き分け。「優勝したらチュウしてあげる」という私の女子学生への約束は夢と消えた。学生達は残念がっているだろうな！